

大阪 保険医新聞

発行所 大阪市浪速区幸町1丁目2番33号 郵便番号556-0021
大阪府保険医協会
発行人 渡辺 征二
電話 06(6568)7721(代)
FAX 06(6568)2389
定価 300円(購読料は会費に含まれます)

おもな内容	
② 透視	社会保障充実のため政治を変えよう
③ 報道	「新型コロナ特例」算定期限迫る
④ 報道	最近の問い合わせ事例より(69)
⑤ 連載	コロナ休業等への支援制度
⑥ 連載	会員SPOT(122)

大阪保険医新聞
編集部 E-mail: shinbun@osaka-hk.org
保険医協会ホームページ
https://osaka-hk.org/

総選挙の視点・論点 第3回

声を上げ「仕方ない」から「諦めない」へ

命を軽視した「公務員削減」から保健所を守る

「コロナ禍のなかで「医療崩壊」とも呼べる深刻な状況となり、本来なら入院が必要な患者の多くが自宅療養を余儀なくされました。しかし、病床の不足など医療をとりまく問題はなお改善されていません。そうした中で秋に行われる総選挙は、これからの日本の医療・社会保障をどう立て直すのかを決める絶好の機会です。そのため「総選挙に向けた視点・論点」として、様々な分野から今の政治について考える特集を行っています。第3回目は、この間の大阪府内の自治体や保健所行政をめぐる問題点について大阪府関係職員労働組合(大阪府職労)執行委員長の小松康則氏にインタビュー取材を行いました(聞き手は編集部)。

を度切りに次々と独立行政法人化され、ついには公衆衛生研究所までもが独立行政法人化されていきました。様々な業務が民間委託され、府の職員は大幅に削減されていったのです。特に、2008年以降は「全国一スリムな自治体」をめざして、より一層の職員削減と効率化が重視されていき、2016年度には人口10万人あたりの職員数を

の少なさが全国トップとなりました。この頃から住民を「顧客」と捉え、対面に見合ったサービスを提供するのが自治体の仕事であるかのように考え方がじわじわと浸透していったと思います。

府民と公務員の分断も深まりました。刻々、何かあるとすぐにパッシングを受けるため「公務員だから仕方ない」など、職員の中にも諦め感が漂っていたと思います。

透していったのではないかと思います。さらには他の都道府県ではみられない、職員の思想・信条の自由を制限するような条例も制定されています。職員は声を上げることが難しくなりました。

●第4波での感染爆発、クラスター対応等、連日残業で休めない状態が続く、疲れきっているのに、増加した電話やコピー代、タクシー代の予算が少なくなっているから気をつけてと管理職から指示。民間委託には何十億円とすぐに出すのに。職員をどこまで精神的に追い詰める気なのでしょうか(2021.5.31)。

●土日でも夜も頑張っていた派遣の方が派遣元の都合で他の保健所へ派遣されることになりました。この数か月何のために労力をかけてきたのかと思ってしまいます。また新たな方が来られますが、結局は現場で一から経験を積んでもらうしかありません。長期的な人の配置が必要ですよ(2021.9.2)。

●連日2000人、3000人と感染者が増え続け、保健所管内でも100人、150人を超える発生があります。今の人数では全然追いつかず、深夜まで頑張っても翌日への積み残しがあり、仕事はたまって一方です。「もう限界」という声があちこちから聞こえてきます。今すぐ人を増やしてください(2021.9.2)。

保健所の大幅削減と忙殺される保健師の悲痛な声

保健所についても同じく削減が進められてきたのでしょうか。その通りです。今申し上げた「行政改革」路線の中で、保健所行政も大幅に後退させられていきました。

1994年の保健所法の廃止とともに地域保健法も改悪されて以降、保健所業務の移管や民間サービス化が進んでいきました。その結果、全国的に保健所数は約半数までに落ち込んだのです。そして、大阪府においても保健所は減らされてきました。

さらに、大阪市・堺市・東大阪市などについても次々と保健所の削減が進められていった結果、2000年当時で大阪府内に61あった保健所は、現在は18と約3分の1にまで減らされています(図)。

この保健所の削減に伴い、保健師を含めた職員数の削減も急速に進められていきました。

その中で「コロナ禍」となり、保健所は少ない人員でさらに忙殺されることになっていったのです。

感染症チームに所属するある40代の保健師の仲間からは、以下のような悲痛なき、業務はさらに肥大化していったのです。

「朝5時半に起床、7時から家に帰る、9時から業務が始まり、終わるのが深夜1時、家に帰ると深夜2時」

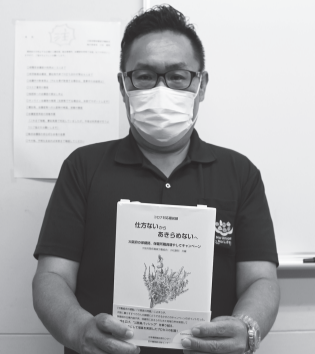
「電話相談対応をはじめ、入院・宿泊療養・自宅療養の調整、濃厚接触者や自宅療養者への対応など業務は膨大」

「本庁からは現場に対する意見聴取が一切ないまま、現場が必要としていないシステム等を次々と投入していき、業務はさらに肥大化していったのです。何とかして変化を起こすために立ち上がりたいと始めたのが「大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン」の取り組みでした。」

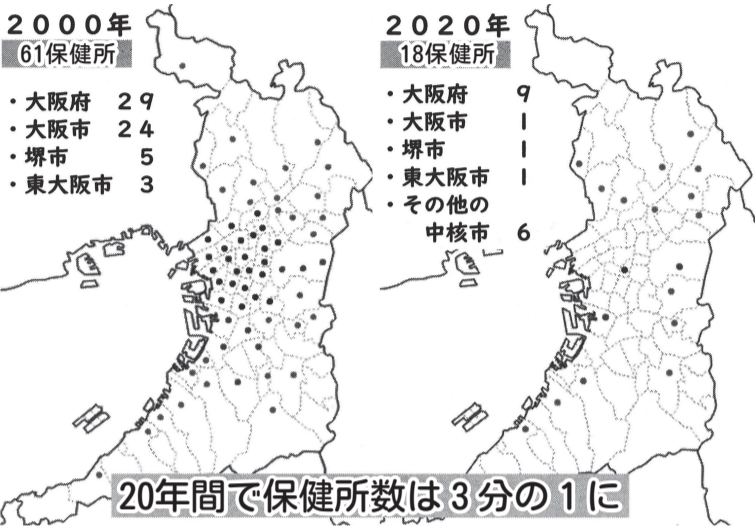
「精神的な混乱とストレスにより、若手保健師も次々とメンタルや体調不良を訴えている」

他にも同様に、多くの保健所の仲間たちから「このままでは救える命も救えない」といった声が、続々と届いたのです。

こうして声を上げて、何とかして変化を起こすために立ち上がりたいと始めたのが「大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン」の取り組みでした。」



大阪府関係職員労働組合 執行委員長 小松 康則 氏



20年間で保健所数は3分の1に

大阪府内の保健所数は20年間で約3分の1にまで減らされた

「このままでは救える命も救えない」

「コロナ禍はそうでした中々襲ってきたのです。そして、大阪府においても保健所は減らされてきました。」

「精神的な混乱とストレスにより、若手保健師も次々とメンタルや体調不良を訴えている」

他にも同様に、多くの保健所の仲間たちから「このままでは救える命も救えない」といった声が、続々と届いたのです。

こうして声を上げて、何とかして変化を起こすために立ち上がりたいと始めたのが「大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン」の取り組みでした。」

「精神的な混乱とストレスにより、若手保健師も次々とメンタルや体調不良を訴えている」

他にも同様に、多くの保健所の仲間たちから「このままでは救える命も救えない」といった声が、続々と届いたのです。

こうして声を上げて、何とかして変化を起こすために立ち上がりたいと始めたのが「大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン」の取り組みでした。」

「精神的な混乱とストレスにより、若手保健師も次々とメンタルや体調不良を訴えている」

他にも同様に、多くの保健所の仲間たちから「このままでは救える命も救えない」といった声が、続々と届いたのです。

こうして声を上げて、何とかして変化を起こすために立ち上がりたいと始めたのが「大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン」の取り組みでした。」

「精神的な混乱とストレスにより、若手保健師も次々とメンタルや体調不良を訴えている」

他にも同様に、多くの保健所の仲間たちから「このままでは救える命も救えない」といった声が、続々と届いたのです。

こうして声を上げて、何とかして変化を起こすために立ち上がりたいと始めたのが「大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン」の取り組みでした。」

「精神的な混乱とストレスにより、若手保健師も次々とメンタルや体調不良を訴えている」

他にも同様に、多くの保健所の仲間たちから「このままでは救える命も救えない」といった声が、続々と届いたのです。

こうして声を上げて、何とかして変化を起こすために立ち上がりたいと始めたのが「大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン」の取り組みでした。」

バイデン 米大統領は、8月31日にハワイトハウスで国民に向けて演説を行い「他国をつくり変えるために大規模な軍事作戦をする時代は終わった」と述べた。

▼戦費は20年間で2兆ドル(約220兆円)を費やし、米兵2千461人が戦死、2万744人が負傷したと語った。8月26日にはアフガン撤退に際して自爆テロでさらに13人の米兵が犠牲になったが、対テロ戦争の最後でまたしてもテロが起き、さらにアメリカ力は報復の空爆を実施、民間人が犠牲になった。

▼ベトナム戦争でのサイゴン陥落のシーンを思い出すのは私だけではないだろう。ベトナムとアフガニスタンの2つの戦争を対比する声は多いが、共通するのが米国の民主国家建設を理由にした介入と言われていることだ。

▼ベトナムは米国と中ソの代理戦争という側面が強く、米軍撤退とともに戦闘は終結したが、アフガニスタンは多民族国家で、歴史的に政治が安定せず、今後内戦が終わる見通しは立っていない。アフガニスタンは、戦後のベトナムよりも難しい状況に置かれるだろうと識者は指摘している。

▼国内では、菅総理の突然の辞任表明で次期総裁選に注目が集まっているが、強権政治、政治腐敗に終止符を打てるのか甚だ疑問だ。

1面からの
つづき

「現場の声」が大きな力に 共感を広げ保健師増員へ



「大阪府の保健師、保健所職員を増やして」キャンペーンは大きな反響を呼び、取り組みをまとめた本も出版された

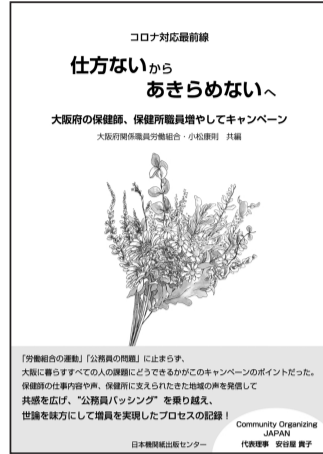
「現場の声」について教えてください。
「大阪府の保健師、保健所職員を増やして」キャンペーンは昨年8月「現場の声」を始めたのは昨年8月からです。

取り組みに当たって大切にしたのは、困難にある当事者の方々に立ち上がって進めましたが、大変大きな力となりました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。



『仕方ないからあきらめない』 コロナ対応最前線 大阪府の保健師、保健所職員増やしてキャンペーン (2021年7月21日、日本機関紙出版センター、1000円+税)

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

今こそ「憲法25条」が掲げる 原点に立ち返った政治に

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

「現場の声」はこれまでに110回以上発信し、多い時には3千人を超える方に拡散していただき、閲覧した方が70万人を超えることもありました。

透視

約一年半以上続くコロナ禍は「公衆衛生の弱体化」「医療従事者不足」「低診療報酬で体力を奪われる医療機関」「受診を阻む患者負担増」など、これまでの社会保障削減政策のツケともいえる問題を次々と浮かび上がらせた。

しかし、政府は従前の政策について反省することなく、引き続き「自助」を前面に打ち出し「公助」を軽視し続け

「公助」を軽視し続けた。そして、直近の国会でも「病床削減推進法案」や「医療費2倍化法案」を

ク強行の結果「医療崩壊」とも呼べる事態に陥り、4度目となる緊急事態宣言も延長せざるを得なくな

そのしわ寄せは、地域の医療機関にも及ぶこととなり、患者さんの命と健康を

守るために、現場は対応に苦しむ続けている。

社会保障を充実させるため 投票に行き政治を変えよう

このようなコロナ対応の問題を背景に、菅首相は退陣に追い込まれ、マスコミ

は次の与党総裁選で持ちきりである。しかし、報道内容

な内容に終始しており、政策の中身についてはほとんど

そして、選挙で政治を変え

果たした時には、投票

来年は診療報酬改定が控えており、社会保障の

今年に行われる総選挙では、コロナ禍で得られた反

先んじて「住民の命と安全・安心を最優先に考える社会を実現す

大阪府は各保健所に保健師を1人ずつ増員することを決定しました。